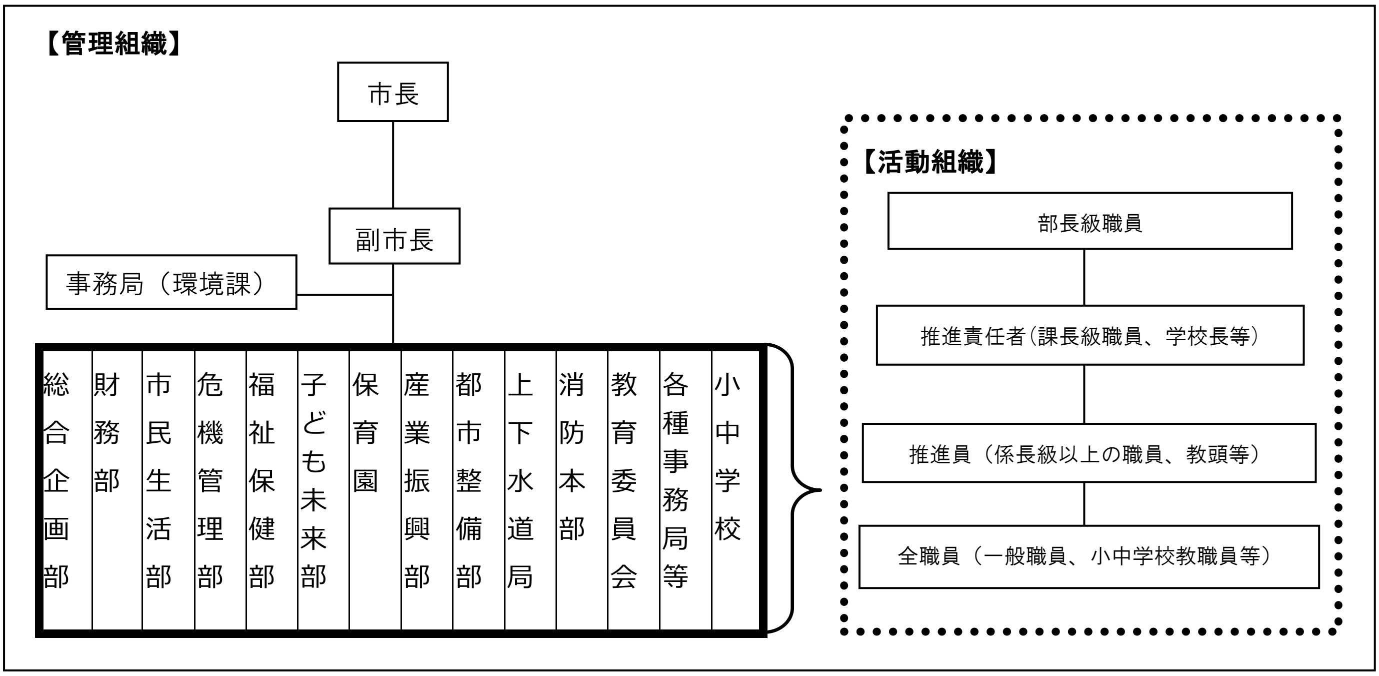
環境マネジメントシステム（かしエコ）編 令和元（2019）年度報告

1　柏崎市の取組

柏崎市は、業務における環境負荷の低減を図るため、平成19(2007)年3月に環境省が推進する環境マネジメントシステム「エコアクション21」の認証を受け、本庁舎だけでなく保育園や小中学校等関連施設が一体となって取り組む環境政策に12年間継続して力を入れてきました。

令和元(2019)年度からは、これまで培った環境意識や省エネのノウハウを活かしながら、取組を推進するための独自の環境マネジメントシステム「**かしわざきエコシステム（かしエコ）**」を策定し、各所属におけるエネルギー管理や省エネ行動の推進を展開しています。

2　組織図



3　環境取組方針

全職員が業務全般において環境への影響に配慮し、効果的に環境対策を展開していくため、以下に本市の事務事業に対する環境取組方針を定めています。

【基本理念】

柏崎市は、美しい海と山々に恵まれた自然豊かなまちです。私たちはこの豊かな自然から多くの恩恵を受け、数多くの産業や文化を生み、育んできました。

このかけがえのない柏崎の自然環境を将来世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた重要な責務です。

地球温暖化を始めとした地球規模での環境問題が一層深刻化する中、まずはこの柏崎地域における取り組みから着実に進めて行くことが重要であると考え、市自らが率先して環境への負荷低減に努めてきました。

今後もこの環境取組方針の下、職員一人一人が環境への影響を配慮した業務を推進し、継続的な省エネ・省資源行動を実践することで、「力強く 心地よいまち」の実現を目指して行きます。

【環境取組方針】

（1）地球温暖化対策に取り組みます

公共施設の改修時等において、施設の規模や用途に合った再生可能エネルギー・次世代エネルギー設備や省エネルギー設備の導入を検討し、温室効果ガス排出量の削減に努めます。

（2）環境に配慮した事務事業を推進します

業務全般において省エネ行動や省資源の取組を実践し、エネルギー使用量の削減に取り組みます。また、グリーン購入を推進し、環境負荷の低減に努めます。

（3）廃棄物の排出量の削減に努めます

３R（Reduce（リデュース）：ごみを減らす、Reuse（リユース）：繰り返し使う、Recycle（リサイクル）：資源に再生）を推進し、廃棄物の排出量削減に取り組みます。

（4）職員の環境意識向上を図ります

職員に対して環境教育を実施し、環境意識の向上を図ります。

（5）環境関連法令を遵守します

環境関連法令等を遵守し、環境保全に努めます。

4　環境目標

かしエコを効果的に運営するために、以下のとおり目標を策定します。

(1) 温室効果ガス削減量

市の業務から排出される温室効果ガスは、柏崎市地球温暖化対策実行計画事務事業編に基づき、以下のとおりとします。

項　目	年　度	削減目標
基準年度	H25(2013)年度	36,914ｔ-CO_2
短期目標年度	R3 (2021)年度	-19%（29,900ｔ-CO_2以下）
中期目標年度	R12(2030)年度	-40%（22,148ｔ-CO_2以下）

参考：柏崎市地球温暖化対策実行計画事務事業編　温室効果ガス削減量

(2) エネルギー使用量（市役所全体）

保有する施設全体の年度内エネルギー使用量が原油換算値1,500kl以上である事業者は、省エネ法に基づき「特定事業者」として各施設におけるエネルギー使用量の経産省への把握義務が生じます。

定期報告の結果は、S・A・B・Cの4段階へクラス分けされます。

削減目標
5年間の平均エネルギー消費原単位※-1% または電気需要平準化評価原単位-1%の努力義務
対象
市長部局及び教育委員会部局

※エネルギー消費原単位：エネルギーをどれだけ効率よく使用しているか示す数値

【評価段階】

クラス	水準
Sクラス	努力目標達成　5年間の平均原単位について年1%以上の低減を達成
Aクラス	Bクラスよりは省エネ水準は高いが、Sクラスの水準には達しない事業者
Bクラス	努力目標未達成かつ2年連続で対前年度比増加、または5年間平均原単位が5%超増加
Cクラス	Bクラスの事業者の中で特に判断基準遵守状況が不十分

(3) エネルギー使用量（各所属）

ア　電気・化石燃料・水

削減目標	
前年度使用実績-1%	
項目	種　類
電力	電気（再生可能エネルギー使用量は除く）
化石燃料	ガソリン、灯油、軽油、A重油、液化石油ガス、都市ガス、BDF
水	水道

イ　廃棄物

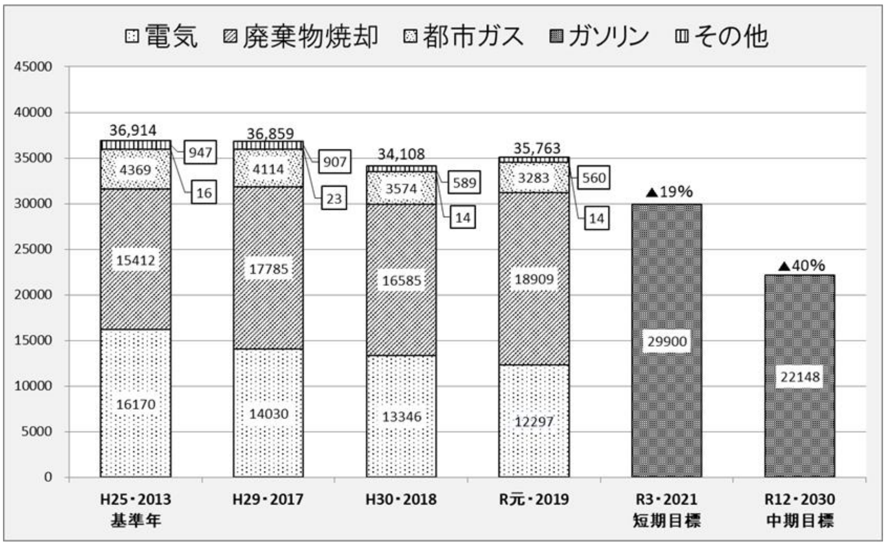
削減目標	
前年度使用実績-１.5%	
項目	種　類
廃棄物	可燃ごみ、不燃ごみ（資源物は除く）

5　実績

（1）温室効果ガス削減量

令和元(2019)年度実績は以下のとおりです。詳細はP20にも掲載されています。

基準年度	H25(2013)年度 36,914ｔ－CO_2
短期目標年度	R3 (2021)年度 29,900ｔ－CO_2（▲19%）
中期目標年度	R12(2030)年度 22,148ｔ－CO_2（▲40%）
H29(2017)年度実績	36,859ｔ－CO_2（▲0.1%）
H30(2018)年度実績	34,108ｔ－CO_2（▲7.6%）
R元(2019)年度実績	35,763ｔ－CO_2（▲3.1%）



柏崎市の事業からの温室効果ガス排出量・目標（単位：t－CO_2）

（2）エネルギー使用量（市役所全体）

令和元(2019)年度実績は以下のとおりです。エネルギー消費原単位対前年度比は市長部局、教育委員会部局共に達成できました。

	市長部局	教育委員会部局
クラス	**Sクラス**	**Sクラス**
エネルギー消費原単位対前年度比	96.8%(達成)	94.8%(達成)
5年度間の平均エネルギー消費原単位	98.0%(達成)	98.6%(達成)

(3) エネルギー使用量及び二酸化炭素排出量(職員が常駐している所属)

令和元(2019)年度実績は以下のとおりです。

ア　電気・化石燃料・水

項目		単位	R 元(2019)目標 (H30 実績-1%)	R 元(2019) 実績	達成状況 (%)	R2(2020)目標 (R 元実績-1%)	CO_2排出量 (kg)
電気(再エネ使用量は除く)		kWh	13,607,532	**13,535,713**	○ -0.5	13,400,356	**7,404.035**
化石燃料	ガソリン	L	92,874	**90,890**	○ -2.1	89,981	**211.016**
	灯油	L	53,339	**44,741**	○-16.1	44,294	**111.491**
	軽油	L	85,194	**79,069**	○ -7.9	78,278	**207.504**
	A 重油	L	53,955	**64,610**	×+19.7	63,964	**175.069**
	液化石油ガス(LPG)	㎥	12,397	**8,299**	○-33.0	8,216	**24.913**
	都市ガス	㎥	640,066	**629,741**	○ -1.6	623,444	**1,327.765**
	BDF	L	530	**722**	×+36.2	715	**1.895**
					合計		**9,463.688**
水		千㎥	150,844	**149,595**	○ -0.8		―

イ　再生可能エネルギー

項目	単位	R 元(2019)実績
太陽光発電	kWh	39,711
消化ガス発電	kWh	1,197,000
木質ペレット	kg	200

ウ　廃棄物(可燃ごみ・不燃ごみ)

項目	単位	R 元(2019)目標 (H30 実績-1.5%)	R 元(2019) 実績	達成状況	R2(2010)目標 (R 元実績-1.5%)
燃やすごみ(プラスチック)	kg	2,997	2,062	○	2,031
燃やすごみ(プラスチック以外)	kg	72,039	69,948	○	68,899
粗大ごみ、燃やさないごみ	kg	5,306	4,869	○	4,796

エ　産業廃棄物、資源物排出量

産業廃棄物		資源物	
種類	排出量[kg]	種類	排出量[kg]
プラスチック類	450	プラ製容器包装	3,868
汚泥	651,473	紙類	77,181
アスファルト・コンクリート	34,950	ビン･缶類	1,995
金属くず	4,271	せんてい枝	8,351
感染性廃棄物	636	乾電池[個]	【3,201】
そのほか	838	蛍光管[本]	【1,976】

※資源物総量のうち、乾電池と蛍光管は個数での算出のため総量から除いています

6　その他の実績

(1) グリーン購入の取組実績及び評価

グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際に、グリーン購入法に基づいた環境負荷の少ない製品を選んで購入することです。

令和元（2019）年度は、以下の特定調達品目について、環境物品の購入目標を 100%と定め、購入頻度が高い分野は毎月の購入実績を記録しています。その他の分野は、購入頻度が低いため調達目標を当面の間設定しないものとします。

グリーン購入特定調達品目（20 分野）	
毎月の購入実績を記録	文具類、照明、自動車、制服・作業服、作業手袋、災害備蓄用品、
グリーン購入の努力	オフィス家具等、画像機器等、電子計算機等、OA 機器等、移動電話、家電製品、エアコン等、温水器等、消火器、インテリア・寝装寝具、その他繊維製品、その他設備、公共工事、役務

項目 / 年度	紙類	文具類	照明	自動車等	制服・作業服	作業手袋	災害備蓄用品
H29(2017)	98.8%	89.4%	75.4%	46.9%	90.5%	72.2%	16.1%
H30(2018)	80.0%	87.0%	39.6%	19.2%	86.4%	84.4%	91.3%
R 元(2019)	-	81.6%	62.1%	46.5%	100.0%	34.0%	71.4%

※紙類は、全国的に古紙の海外輸出が増加し、物品の調達が困難になっている背景を踏まえ、R 元(2019)年度はグリーン購入特定調達品目から除外しました。

(2) 環境に対する職員の意識

職員個人が取り組むエコオフィス活動の評価を行っています。年 4 回の評価とし、「概ね達成できた」職員の人数を記録しています。

No	取組項目	割合
1	照明や空調など、使用しない場合は消している。	91.1%
2	運転時は、エコドライブを心掛けている。	89.6%
3	印刷時は、ページ数が必要最小限の量となるように考慮したり、ミスコピーがないようチェックしたりと紙使用の削減を意識している。	87.4%
4	設備や備品の購入時は、グリーン購入法対象物品や省エネ製品など環境に配慮した製品を購入するよう心掛けている。	76.7%
5	マニュアルやお知らせなど共通の資料は、係内で共有している。	88.0%
6	業務だけでなく、日常生活においても３R を実践している。	86.7%
7	日常生活において、使い捨て製品（レジ袋、紙コップ、割りばし等）の使用や購入を控える。	69.7%
8	普段の食事や宴会時など、食べ残しがないように意識したり呼び掛けたりしている。	86.3%
9	クリーンデーなど、地域の環境美化活動に積極的に参加している。	67.8%
10	庁内の環境活動（ノーマイカーウイーク、緑のカーテンなど）に参加したり、家庭においても省エネ行動を意識している。	72.1%

7　市の事業における環境活動の評価

地球温暖化は、世界規模で取り組むべき差し迫った課題です。北極圏や南の島だけの問題でないことは、近年の台風や嵐といった異常気象、夏の猛暑、小雪などから私たちも肌で感じているところではないでしょうか。このまま地球温暖化が進行すると、新潟県においても高温障害による米の品質低下や海面上昇による海岸浸食などの影響が懸念されています。

国は、菅首相の所信表明演説において、国内の温室効果ガスの排出を令和３２（２０５０）年までに実質ゼロとする「カーボンニュートラル宣言」を表明しました。新潟県においても同様に温室効果ガスの排出量実質ゼロを目指す表明がされ、国全体が温暖化対策へのスピードを上げてきています。

本市では、温室効果ガス削減目標を平成２５（２０１３）年度を基準に令和１２（２０３０）年度には区域施策編において−２６％、事務事業編においては、−４０％と目標を掲げ、新エネ設備の導入検討や温暖化対策意識向上に向けた取組を推進しています。

令和元（２０１９）年度からスタートした柏崎市役所独自のマネジメントシステム「かしわざきエコシステム」では、各所属が使用エネルギー量を把握し、職員の省エネ行動実践を促すための取り組みを実施しています。事務事業編における温室効果ガス排出量は減少傾向にあるものの、太陽光や風力といった再生可能エネルギーや水素などの次世代エネルギーの活用による効果的な対策を継続して検討していく必要があります。

地球温暖化の影響を少しでも少なくするためには、行政だけではなく市民一人一人がどんなことをできるか考え、行動に移すことが大切です。行政においてもその活動を支援し、継続させる取組を推進してまいります。

柏崎市長　櫻井　雅浩

柏崎市の環境 令和 2(2020)年度版
令和 2(2020)年 12 月発行

編　集 柏崎市市民生活部環境課
クリーンセンターかしわざき
〒945-0011 柏崎市松波四丁目 13 番 13 号
電話 0257-23-5170